

報道関係等部外対応

左の表は、テレビ局、ラジオ局、新潟日報等の報道機関から四月〜八月の間に取材があったものです。「まち歩き」は、各地で最近ブームになっている様ですが、当シティガイドは活動

平成25年(4月~8月)取材・講演等の活動

Table with columns: 日付, 活動, 対応者, 対応機関, 内容. Lists various activities and interviews throughout the year.

を開始して、五年を経過していることあり、新潟市民の皆様を始め、多くの地域から注目されている証だと思えます。更には、技術・内容・お客様対応等の面において、お互いにスキルアップを図る様に勤めて参ります。

新潟シティガイド

NO. 17号
<<編集発行>>
新潟シティガイド
<<発行人>>
八木 洋

みんなで広げよう
「えんどこ」の輪!



星 恵士

新潟市中央区地域課長

中央区の見どころや、みなとまち新潟の歴史・文化などを、新潟シティガイドの皆さまの案内で楽しんでもらう「えんどこ」まち歩きは、中央区の特色ある区づくり事業のひとつとして平成二十二年から始まり、これまでに市内外から延べ二千二百人の方々からご参加をいただきました。

今年度前期の「えんどこ」では、「沼垂小路巡り」や「学校町・関屋エリア」の新規コースのほか、「ランチ付き」「懇親会付き」「ミニコンサート付き」など、新たなお楽しみ企画付きコースも追加し、九日間で十八コースを実施しました。



「えんどこ」まち歩き風景

「えんどこ」後期日程は九月十一日からの予定です。ゆっくり歩いてみることで気づく中央区の魅力を、さらに多くの方に感じていただけるよう、引き続きご協力をお願いいたします。先程のアンケートでもご指摘がありました。街の印象や感じ

第三期生として、昨年四月から実働十一回を経験しました。毎回楽しみに、自分なりに準備をして臨みますが、結果の満足度はいまいち、反省点が多く残ります。



上村 勇

ガイド一年を過ぎて

ガイド日記

新潟船方節
日和山から沖眺むれば
沖にはかもめの夫婦ずれ
足を櫓に身を船に
羽を帆にして船遊び
私の心もその通り
夫婦仲良く
トコ兄ちゃんそのように



日和山展望台より



新潟市マンガ・アニメ情報館

六月八日、二瓶芳枝さんと小生が「えんどこ」まち歩き『にいがたマンガ・アニメ満喫コース』のガイドを担当した。参加者が九名(男性六名、女性三名)で、二、三十代が二名、あとは五十代後半から六十代、七十代の方々であった。リピーターがほとんどで、みなさんはこのコースが新コースなので参加したという感じであった。



浅野 和雄

初めての『マンガ・アニメ満喫コース』

一 会員紹介

Table with columns: 写真, 氏名, 住所, 趣味, 関心のあること, 新潟シティガイドとしての抱負. Profiles of various members.

広報からのお願い
・投稿をお願いします。
・ホームページに新しい機能を追加しました。大いに利用しましょう。
・心温まるホットな話、楽しかった話、厳しかった話を、皆で情報共有しましょう。

編集後記
広報誌トップは、毎回、我々の活動に、日頃からご指導・ご支援を頂いており、まず、会員以外のVIPの方々よりご投稿をお願いしておりますが、この度は、「えんどこ」で大変お世話になっております。中央区地域課長様から、ご投稿を頂きました。



所だった場所を改装した売店へ直行。純米酒は香りがつきにくい、と言われるが、香り、味、風味、更に透明度、飲んだ時の切れ、それらを試飲で確認、本当のお酒を求める男にはたまらない一瞬。うまい！

又、母屋は昭和四年ごろ先代が細部にまでこだわり二年も掛け建てた数寄屋風建物。こち



試飲所：売店

四十三年に埋め立てられ、四十六年にはバイパス道路になりすっかり変わってしまったが、かつては北前船とともに新潟湊の醸造の町として隆盛を極めた所に、現代も息づく全量純米仕込みにこだわる蔵元「今代司酒造」がある。

「今代司酒造」には九代目蔵元を継がれた「山本平吉」さんがおられ、蔵元の笑顔に酒造り一筋の人柄が感じられます。かつて酒どころ新潟に数ある蔵元の中で全量純米仕込みの酒蔵は「今代司酒造」だけでした。蔵元から清掃が行き届いた酒蔵を案内（事前予約をお勧め）して頂く、そして見学後は昔は台

いくつもの常設展示コーナーがありすが、中でもお気に入り、赤塚不二夫先生「おそ松くん」のイヤミと同じポーズをとって写真撮影ができるブースや、ミラーで自分が六つ子になれる撮影ブースです。

立ち寄ってみたいかがでしよるか。新しい発見があるかも知れません。



マンガの家

「新潟市マンガの家」は古町通五番町商店街のマンガストーリーにある、「マンガ・アニメのまち」をいつでも体感できる施設です。新潟市ゆかりのマンガ家の作品世界に触れ、いつでもマンガを描くことができます。

「新潟市マンガの家」は古町通五番町商店街のマンガストーリーにある、「マンガ・アニメのまち」をいつでも体感できる施設です。新潟市ゆかりのマンガ家の作品世界に触れ、いつでもマンガを描くことができます。



加藤 文夫

マンガの家

らも機会があったら必見（残念な事に非公開です）です

メデアシップ↓やすらぎ堤右岸↓マンガ・アニメ情報館である。

途中「マンガの家」と「メデアシップ」では中に入り見学した。但し、この間の途中の一時間強はマンガ・アニメに関するものがなく、はたしてこれが「マンガ・アニメ満喫コース」と言えるのか疑問に感じた。せめて萬代橋に着くまでにもう一つぐらいいマンガ・アニメに係る施設かなにかがあれば、コースとしても納得するものであるような気がした。

ほとんどの参加者はマンガ・アニメより途中の建物・通り等に関心を持っておられた。それらに関する説明等に興味をもつて熱心に耳を傾けてくれた。また萬代橋からの景観はすばらしく感動していた。小生の勉強不足・説明不足もあるが、コース名に一考を要するように思われる。マンガ・アニメ情報館の入口までガイドが終了するのであるが、情報館は有料ということもあって、その後、館に入場したいという参加者はたった一名で、あとは見学しないで帰るというのであった。最後のあじさつたとき、年配者の方から「自分としてはすっきりしないガイドであった。」



阿部 芳郎

出張中の週末利用のお客様をのご案内

「新潟町と新潟医学のルーツを巡るコース」を希望されたお客様は東京の人ですが新潟に出張中という四十代後半の男性。最初の予定日は悪天候で四月十三日（土）に延期。さて当日、待合せ場所に着いたところすぐに声をかけられました。よくお分かりになりましたねと答えましたがお客様はホームページのガイドスタンプ紹介をページでまわっていました。といったことであらう。挨拶をし、簡単な新潟の歴史を話し、県政記念館、白山神社を過ぎ市役所前の通りの信号待ちでお客様より「このコースの人数はどうですか」とこちらが聞きたいことを先に問われまして。花街を含んでいるコースに人気があります。このコースはお医者さんが中心で固い話が多いですが西洋医学が新潟に入ってきた歴史が詰まっているコースですと話し「いい公園へ。ここで竹山屯（たむろ）新潟病院長が北陸巡幸中の明治天皇より新潟に多かつた目の病気の治療、及び予防に努め患者を減らしたさいと千円頂いたエピソードを紹介。」

道を歩きながらお客様にこのコースを選んだ理由を尋ねたら「マイナー狙いとの事。一人で歩けば判るような所がなく、普通の新潟の人が知らないようなところが知りたい。広島、札幌も行った話。お客様は好奇心旺盛で合図打ちがうまく質問上手。ついつい乗せられて普段は省略するような事まで説明。」



澤田 敬義 像

澤田先生の所で新潟医科大学の学長をやられた方ですが、岐阜の人で苦学生で先ほどの竹山屯翁より大学三年のとき月十二円の資金援助を受け卒業後は翁の竹山病院で働く約束で新潟にやってきました。荻野先生も竹山病院の勤務医でしたと説明。といったことで屯翁が新潟医学のキーマンだったのでと話しながらゴールのNEXT 21へ。勉強したいというお客から、こちらが勉強させて頂いた思いのガイドでした。新潟のファンになってもらえたら嬉しいですよ。

下町うんめいもんコース



田村 裕子

コースの勉強をはじめた頃、お客様を案内するにつけては、自分でもお店の味を確かめたいと思いました。

それでコース内のお店を一軒ずつ尋ね、買い物しました。お肉やさんではコロッケがおいしいと聞いたので、「コロッケ一ヶ下さい。」別の店では「モナカ一ヶ下さい。」少し恥ずかしかったけど、一ヶ買いをして



佐藤お菓子屋

廻りました。お店を廻っている内に、ふっとそれがとても楽しいことに気がつきました。私が楽しい事は、お客様にも楽しんでいただけるかもしれないと思いい、スタート地点で次のように説明します。「皆様、うんめいもんコースにどんなイメージで参加していただいたのでしょうか。ランチのおいしい所を紹介してもらえませんか。あるのは、何処かへ食べに行けるのかしらと思っっていますか。もちろんお奨めのランチや会食のお店も、その前へ行ったら詳しく説明します。その他に今日は千円くらいかけて、一ヶ買いか。下町には普段買っていない商品の製造元や本店が色々あります。買った物を家に帰って食べてみて気に入れば、そこでしか買えない物については、お渡しした地図を見ながら、後日買いに来るのもいいですね。」と。

新聞、雑誌で紹介されたお店については、その都度記事を見てもらいます。

お客様達は「お奨めの一品はどれですか。」とお店の人と直接会話して、楽しんでるようです。少し歩き疲れたかと思わ

立ち寄り

酒蔵「今代司酒造」



山崎 雄

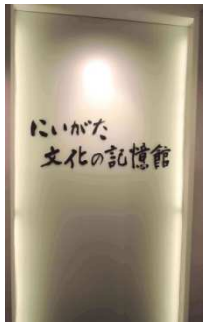
「今代司酒造」の脇には、亀田郷から沼垂へ流れた長さ十二km、川幅四十mの「栗の木川」があった。「栗の木川」は昭和

最近、常磐ヶ丘と言ってもほとんどの人は知らないか答える。旭町高台の大本部跡とか有任記念会館がある場所と言うとだいたい分かるが、その昔何があったかが全く忘れられている。



深澤 一彦

招魂社（前編）



表面入口

公益財団法人「にいがた文化の記憶館」は、新潟日報メディアアシップ五階に、六月四日、オープンしました。

新潟県にゆかりのある文化人を一堂で紹介するとともに、県内の文化人顕彰施設と連携し新たな新潟文化ネットワークの構築を目指すとしています。

開設に当たり、広く個人・団体に寄付金が募られましたが、当会としても、設立の趣旨に賛同する事とし、団体として寄付をさせて頂いた関係で、会を代表し加藤さんと二人で、見学して参りましたので、報告します。

新潟文化の記憶館

勝見進

により新潟町が西軍（官軍）の支配下におかれて終結した。だがこの戦いにおいて新潟町で戦死した人々は東西両軍を合わせて約百名位と言われているが、東軍の米沢藩だけでも色部長門を含め約三二名の戦死者があり、他の会津や庄内、仙台藩の戦死者の数は二十数名と言われているが、数は全くわからないが実情である。勝てば官軍の戦いで勝った西軍は東軍の戦死者の埋葬を許さず、放置され腐敗し、鳥や犬に喰われ死臭



招魂社跡の階段

現在の新潟が江戸時代から明治の新时代の転換期を迎えた重要な出来事に関する史跡の一つである「招魂社」が置かれていた場所であったことを。

この場所は昭和の初め頃までは新潟一の高台にあり、眼下には雄大な信濃川の流れを前に、遠く越後の山々を見、西に弥彦、角田山の背景を見渡せ新潟市街が眺望できる市内随一の風光明媚な名所と言われた。

慶応四年七月二十五日から始まった戊辰新潟戦争が、七月二十九日の東軍総督色部長門の戦死

それから七十数年後の昭和十四年招魂社改め「護国神社」と改称。昭和二十年現在の浜手に移転遷宮した。

その際護国神社の一隅に西軍の墓碑を全て移設し「戊辰の役殉職者墓苑」を建立した。

その後この招魂社跡地は昭和二十四年国立大学法により総合大学として新潟大学が誕生し、国有地から新潟県に移管された後、新潟大学に寄付され、昭和二十六年ここに新潟大学事務局本部庁舎が建設された。この本部庁舎も昭和五十年代の五十嵐キャンパス移転統合後も医学部各種学校で使用されていたが昭和五十九年取り壊された。（つづく）